



木曽林務課だより 12月

木曽の里山の木々が白い綿帽子をかぶっている景色とともに、足元をキュキュと雪を踏みしめる音が聞こえてきます。今回は、森林税を活用した里山整備のための間伐作業講習会を紹介します。

安全な作業を進める里山整備のための研修を行いました

木曽町日義の里山で「木曽林業研究グループ連絡協議会」、「木曽林業士会」、「宮の越地域里山整備利用推進協議会」の主催で間伐作業を安全に行うための講習会が開催されました。この研修会は、「長野県森林づくり県民税」を活用した里山整備利用リーダー育成事業を利用しています。

安全作業は、基本を守った伐倒作業が大事

今回の研修は、伐倒した木が近くの木に引っかかってしまう「かかり木」を、簡易な機材を使って安全に処理する方法を学ぶことが主な目的でした。

まず、講師から、「かかり木」になれば、非常に事故の危険性が高まることから、基本を守って、かかり木になりにくい伐倒作業を行うことが大切という講義がありました。

参加者全員で、事故を防ぐにはその原因を発生させないことが大事であることを再確認しました。



安全作業の確認

かかり木は、機材を使って安全に処理を

昼食に主催者が用意した豚汁でしっかり冷えた身体を温めて、午後の研修に入りました。

午前の講義に引き続き、安全な伐倒作業の基本や、ワイヤーロープを使って木をけん引する「チルホール」の使用方法等を確認した後、わざとかかり木にした胸高直径30cmのヒノキで、かかり木の処理を実習しました。

作業にあたって、講師から作業時は「指差し呼称」を徹底し、注意をそらさないことが大切なことが強調され、実際に「指差し呼称」で作業を確認しながら、チルホールで引くなどして、かかり木処理を行いました。

こうした取り組みにより、地域での森林作業時の事故が少なくなっしてほしいと思います。



チルホール作業の使用方法



かかり木の処理の実習